令和8年7月28日

2026年度　学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
東京情報クリエイター工学院専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 東京情報クリエイター工学院専門学校　学校関係者評価委員会は、2025年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告致します。

１．実施日
令和8年7月27日

２．学校関係者評価委員
木田　徳彦（一般社団法人ソフトウェア協会　理事）
長谷川　長一（株式会社ラック　新規事業開発部　産学官連携事業室　室長・主席研究員）
加邉　徹（株式会社アイ・エス・ビー　シニアマネージャー）
小澤　賢侍（公益財団法人画像情報教育振興協会　教育事業部　事業部長）
小川　美隆（株式会社養鶏場　代表取締役社長）
芝原　賢司（大原学園卒業生）
筑紫　歩（大原学園卒業生）
藤田　一鷹（大原学園卒業生）
千葉　雄大（本校卒業生）

（事務局）
徳田　文秀（東京情報クリエイター工学院専門学校　校長）
伊藤　慎吾（東京情報クリエイター工学院専門学校　部長代理）
杉山　雅信（東京情報クリエイター工学院専門学校　課長）
竹井　一馬（東京情報クリエイター工学院専門学校　課長代理）

【自己評定】３：基準を満たしており、特筆すべき取組を行っている　　２：概ね基準を満たしている　　１：基準を満たしておらず改善が必要

自己点検評価報告		中項目		自己評定（達成度）	内容の要約	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
1	教育理念・目的・目標と職業実践のマネジメント	1	教育理念、目的及び目標の設定等	2	学園の教育理念、目的、目標、育成人材像が具体的な言葉で明文化されており、「技術習得」と「就職」において一定の成果を残し、有為な産業人を育成することができている。 全国に多数の学校を設置している法人であるが、教育理念などは大原学園ホームページなどで広く周知・公表されており、全教職員に浸透している。 技術習得、就職実績のさらなる向上を図るとともに、実務教育の充実に向けて、社会の動向を的確に見極め、ニーズ調査・分析をふまえた事業計画を組んでいる。	・適正に運営されている。 ・専門知識や技術の習得はもちろんだが、働くうえでの心構えや自立する力など、社会に出ていくためのマインドも育むことを期待している。
		2	職業教育のマネジメント体制の整備	2	校長を中心とした運営体制のもと、運営会議、学科会議、教育課程編成委員会等を設置し、教育課程の企画・運営・改善を組織的に行っている。 また、学生アンケート等を活用し、教育活動の検証と改善に取り組んでいる。教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会を通じて、業界ニーズや外部からの意見を教育内容に反映する体制が整備されている。 一方で、社会や業界の変化に対応し、教育内容へより迅速に反映できる仕組みの強化が必要である。	・適正に運営されている。
2	教育課程、教育の実施、学修成果	1	教育課程の編成と授業科目	2	卒業認定方針及び教育課程編成・実施方針に基づき、実務教育を体系的・段階的に配置した教育課程を編成している。教育課程編成委員会等の意見を取り入れ、継続的な見直しを行っている。 教育課程編成委員会を年2回開催し、企業・業界関係者からの意見を教育課程の編成及び改善に反映している。業界ニーズを反映した実践的な教育課程編成が行われているが、意見をより迅速に教育内容へ反映する必要がある。 外国人留学生キャリア形成促進プログラム認定学科においては、日本での就職及び職場定着に必要な知識・能力の修得を目的として、日本の企業文化、ビジネスマナー、コミュニケーション、キャリア教育等、日本社会への理解促進に資する授業科目を300時間以上開設している。また、授業内容は文部科学省が定める要件に基づき適切に編成している。	・適正に運営されている。 ・業界で求められる技術や知識の変化が早いため、定期的な見直しだけでなく、柔軟に内容を更新できる仕組みが望ましい
		2	教育課程の実施	2	全科目でシラバスを作成・公開し、講義・演習・実習等の適切な授業形態で実施している。成績評価基準はシラバス等に明示し、公正かつ厳格に運用している。 連携企業のエンジニアやクリエイターによる特別講義・課題審査を実施し、規定割合を満たす企業連携授業を体系的に組み込んでいる。協力企業と到達目標を事前共有し、評価の協働を行っている。	・適正に運営されている。 ・企業連携授業の成果を、ポートフォリオや作品制作につなげられる仕組みがあるとよい。 複数企業との連携を拡充し、多様な業種・職種への理解を深めてほしい
		3	単位・卒業認定	2	卒業認定方針に基づき、履修状況、出席状況及び成績評価により適正な卒業認定を行っていく。	・適正に運営されている。
		4	学修成果目標の達成状況	2	学科・コースごとに技術修得の目標を設定し、確認テストや課題の審査を通じて、学生一人ひとりの目標達成状況を定量的に把握・評価している。 学生の就職等、進路に関する目標を設定し、その達成状況を把握している。就職指導においては、担当者との個別面談や就職ガイダンス等を実施することで、学生一人ひとりの希望や適性に応じた進路支援を行っている。 また、卒業生や企業からの意見を収集し、教育課程や指導内容の改善に活用している。	・適正に運営されている。 ・技術力だけでなく、コミュニケーション能力や課題解決能力など、社会人基礎力の評価も継続して実施してほしい
3	学生の受け入れ、学生支援	1	学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	2	入学者受入方針を定め、募集要項等を通じて公表し、公正な選考を実施している。 また、入学定員及び収容定員に基づき、適正な学生募集及び入学者受入れを行っている。入学者数及び在籍学生数については継続的に管理し、良好な学習環境の維持及び教育効果の向上に努めている。また、留学生についても在籍状況を適切に把握し、関係法令に基づいた適正な運用を行っている。	・適正に運営されている。
		2	多様な学生に対する修学支援	2	多様な学生が安心して学習できるよう、個別面談や学習・生活指導を実施している。特に留学生については、進路指導や在留資格に関する支援を行っている。また、必要に応じて関係部署や日本語教育機関と連携しながら修学支援に取り組んでいる。 出席状況や学習状況は継続的に把握し、適正な在籍管理を行っている。また、個別面談や就職ガイダンスを通じて、日本国内での就職に向けた進路指導を行っている。 経済的側面に対する支援としては、各種奨学金制度や学費支援制度に関する情報提供を行うとともに、学生や保護者からの相談に応じている。また、学生の経済状況に応じて学費の分納・延納制度を運用し、安心して学業が継続できる環境整備に努めている。	・適正に運営されている。
		3	学生生活に関する支援	2	定期面談や日常的な相談対応を行い、学生情報は教職員間で共有している。 また、学校保健安全法に基づき、学生の心身の健康保持・増進を目的とした健康管理体制を整備している。毎年定期健康診断を実施し、結果に応じて医療機関の受診を勧奨するなど必要なフォローを行っている。心身の不調が見られる場合には個別に対応している。	・適正に運営されている。
		4	学生の自主的な学習等の促進に対する支援	2	補習や個別フォローを徹底している。休学・退学の兆候を早期に把握し、担任面談や保護者連携を通じて支援を行っている。 コンテスト・ハッカソン参加への指導・補助、学内サークル・イベント活動、地域ボランティア等の自主的活動に対して相談・支援を行っている。	・適性に運営されている。

【自己評定】３：基準を満たしており、特筆すべき取組を行っている　　２：概ね基準を満たしている　　１：基準を満たしておらず改善が必要

自己点検評価報告		中項目		自己評定（達成度）	内容の要約	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
4	教員・教育実施組織	1	教員の配置、募集、採用	2	採用基準は整備され、採用計画に基づき、教員は確保できている。 近年、専門性を有する人材の確保（採用活動）が困難になっており、採用活動における課題となっている。	・適性に運営されている。
		2	教員の組織編成等	2	学園組織図において基本的な組織体制を整備するとともに、各校の事業計画書及び業務文書等でそれぞれの業務分担を明確にしている。また、教育に関する組織的な連携及び情報共有も行っている。	・適正に運営されている。
		3	教員の資質向上	2	定期的に学生アンケートを実施する他、上司の講義聴講等により専門性、指導力の把握・評価を行っている。また、企業等と連携した教員研修を実施し、各学科が目指す資格試験の制度や業界ニーズに対応する教育が実践できるよう、教員の資質向上に努めている。	・適正に運営されている。
5	教育環境	1	教育環境の整備点検、改善等	2	適宜メンテナンスを行っている。業者等との連絡体制が明確になっており、適切な維持管理体制を整備している。また、時代に即した実習設備への入れ替え等を行っている。	・適正に運営されている。
		2	安全対策、防災組織	2	防災マニュアル（学校安全計画）を準備し、職員より各クラスで災害発生時のルール確認を行い、災害に備えている。 また、備蓄品等の整備も行われている。	・適正に運営されている。
6	教育活動の基盤と情報の公表	1	中期事業計画と財政基盤	3	2025年4月1日施行（7年間）の中期計画が策定され、専門学校を含む学校種別に明確な計画　（目標）が示されている。 また、事業報告を通じて、進捗状況や課題等も共有されており、必要に応じて見直しを図ることができる体制にある。 十分な財務基盤が確立されている。	・適正に運営されている。
		2	学校運営	3	意思決定システムが確立されており、学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。また、その内容は全体朝礼およびイントラネットやグループウェアにて速やかに告知するとともに各部署で周知徹底している。 本部及び事業部単位で、教職員に必要とされる研修や自己啓発の機会が継続的に提供されている。また、学校単位でも、企業等と連携し外部講師を招いた講習・研修を積極的に取り入れている。	・適正に運営されている。
		3	社会からの理解と情報の公表	2	法令に従い、大原学園ホームページ等に、教育情報や財務情報等が適切に公表されている。	・適正に運営されている。

【総括】
東京情報クリエイター工学院専門学校の令和７年度自己点検評価については、適正であると評価できる。
開校８年目を迎えたが、学校運営の取り組み、教育成果（就職、教育実績）など、学生や保護者が安心できる環境が提供されており、今後も引き続き一定水準を保っていくことが期待される。そのためにも、現状に満足することなく、常に社会で求められている人材育成を意識して取り組み、先々を考え常により良い教育環境、学校運営ができるようにＰＤＣＡを繰り返しブラッシュアップをする必要性を会議の中で確認した。